

淡路土を使った糊土仕上げ

近畿壁材工業の社内勉強会一例

匠に役立つ社内勉強会レポート

左官材料メーカーとして材料を販売する立場から伝統左官工法について毎月勉強会を行っており、その内容をレポートとしてまとめた社内資料です。当社の知見に関する内容で、施工を保障する物ではありません。

糊 土【糊捏ね仕上げ】

糊土（のりつち）とは、土に砂とすさを合わせたものを海藻糊によって練り上げ塗る土壁の上塗り仕上げです。

「じゅらく壁」と言われる土壁仕上げを模した製品が発売されるまでは、色土を砂とすさだけで練って仕上げる「水捏ね」という工法があり茶室などの仕上げに塗られておりましたが、「聚楽土」などを使う水捏ね仕上げには高い技術が必要で一般的な普及までは難しかったようです。

そこで考えられたのが、「海藻糊」を入れる工法で、海藻糊を入れることによって粘性などの土の成分を気にすることも無く、また高い左官技術や特殊な罎などを準備する必要も無く水捏ね風に塗ることが出来る「糊土」が誕生しました。

土壁に糊を入れることで薄く塗ることができ、塗り厚が揃えやすくなり、罎波も消しやすくなりむらなく塗ることが出来ます。ただ使用する土によっては、海藻糊の効果によって固められていることもあり、糊の効果が失われてくると壁の強度が低下する。よって土だけでも十分な強度がある粘土分の多い土を使うほうが良く、今回は淡路土を利用して検証を行いました。



水捏ね仕上げの壁



海藻糊の煮汁を利用する土壁

淡路島糊土に使用した材料

淡路土(あわじつち)

淡路中塗土は極めて小さな粘土粒子を多く含む土で、水を含むことで高い粘性と保水性を持ち、乾燥後の強度もありますが、乾燥収縮が大きく施工性も良くないことから他の材料との配合で調整が必要です。



淡路島硅砂

淡路中塗土とほぼ同じ場所で採れる左官砂です。小さきまざまな粒度が含まれ、乾燥時に起こる収縮を防ぎます。



ひだしすさ

長期間水に浸し、あくをぬいた稲藁を細かく裁断し節を取り除いたすさ。通常は切り返し仕舞いなどに利用するが、これを細かく裁断しみじんすさに利用する。



黒葉銀杏草

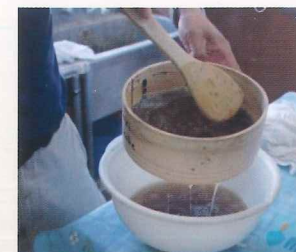
海藻糊の中では一番粘性もあり漆喰などにも使われる。ふのりや角又など糊土に使う糊は様々あり、どの糊を使っても施工は可能です。



淡路島糊土の材料配合

土壁に海藻糊を入れて練る場合、大別して2種類あります。一つには「糊さし仕上げ」と今回の「糊土仕上げ」があります。この2種類の違いは基本的に混入する糊量のちがいです。混連方法にも若干の違いがあります。糊さし仕上げは、あらかじめ土と砂とすさを水で固練りした物に海藻糊の煮汁を混入し塗りやすい硬さに調整します。また糊土は、土と砂とすさを空合わせした物を海藻糊の煮汁だけで練り上げていきます。今回は、糊土の検証と言うことで空合わせした材料に海藻糊の煮汁を入れ混連しました。

土は、高級淡路土3厘を使用しすさはあくぬきのひだしすさの節を手箕で篩ったものをナタ切りしたものをみじんすさとして使用しました。



黒葉銀杏草の煮汁



みじんすさの製造

試験施工

	サンプルA	サンプルB	サンプルC	サンプルD	サンプルE
高級淡路土	1kg	1kg	1kg	1kg	1kg
淡路島硅砂	800g	1kg	1.5kg	1.5kg	1kg
あくぬきみじんすさ	32g	32g	32g	16g	16g
黒葉銀杏草煮汁	適量	適量	適量	適量	適量

糊土は、配合により亀裂や作業性が大きく変わります。特に乾燥後の収縮亀裂や罎波の消しやすさなど砂とすさのバランスが重要になります。今回の配合は、特に近年増えている石膏ボード下地を意識し当社のボードベース下地材への施工を想定した配合で繰り返し試験を行いました。

また、一番良好であった試料を参考に、現場での段取りを考慮して黒葉銀杏草炊き糊を粉末の海藻糊に変えた調合商品も完成させました。

塗り付けは2度塗りが良好で、1回目は比較的軟らかい材料を塗り、追い掛けで再度塗り付けすぐに罎波を消す方法が塗りやすい。

下地の水引が遅いほうが塗りやすいこともあり、比較的糊は濃い材料のほうが良好であった。また、すさ量や砂量を増やす事で罎波を消しやすくなるが、乾燥後の強度は低下する傾向にありました。

